

ひかりのこ

1,2月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2025年1月21日

月主題：かさねる、響き合う

「お祈り」

クリスマスに行われた幼児さんのクリスマス降誕劇。年長さんがマリア様や羊飼いさんなどのセリフや独唱のあるお役、年中さんが聖歌隊、年少さんは羊飼いの後を歩く羊さんのお役をして、クリスマスをお祝いいたしました。どの子も立派に自分のお役を果たしていました。

降誕劇と終業式の合間の時間を使って、教会員の雨宮春子さんが、ご自分の活動している海外への支援のお話を、保護者の皆様へお伝えしました。昨年までアフリカタンザニアの赤ちゃんとお母さんの命を守る医療の向上のためにご尽力され、帰国した現在は、アフリカの人たちが学び、資格を取るための奨学金支援のため、活動していらっしゃいます。

聖公会では雨宮さんの活動を支援するため、「グレースの会」を立ち上げており、クリスマスに皆様がお捧げくださった献金の一部は、このグレースの会の寄付として捧げられます。

降誕劇の最後のほうで子どもたちのセリフの中に「クリスマスの星の様に、愛の光がこれからも輝きますように」というお祈りの言葉があります。

幼い子どもたちが、目の前にはいない人々のために、神さまにお祈りをささげる行為。私たちがお友達と仲良くするように、世界中の人とも仲良くして、助け合えますように、と祈る心。幼い時から神さまと遠くにいる世界中の人々に心をはせることが、どれほど豊かで大切なことか、と考えます。

もしお家でお子さんがお祈りをすることがあれば、ご家族の皆様もどうぞ一緒に手を合わせてくださいね。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「私の足のともしび」

夜中にひとりで目がさめた時、絵本で読んだオバケがたたみの下に隠れているのではないかと怖くなったりしたことはありませんか？シーンと静かな夜の暗闇の中で目が覚めているのは自分だけだと思った時に、お気に入りのタオルを頭にかぶりながら親の布団の中に急いで転がり込んだことがあるのは私だけではないと思います。あわてて布団に潜り込んで親の体にしがみついて、その体温を感じたとたんに、怖くてたまらなかった気持ちが落ち着いて、羊を数える間もなく安心して寝入ってしまったものです。聖書が語りかける言葉も、あの布団の中のぬくもりのように、守ってくれる優しさに満ちたものです。そして、一つ一つの言葉は「お守り」のように私たちの気持ちを支え、暗くなった心を照らしてくれます。

それは決して太陽のようにまぶしく強い光ではなく、夜、その足元を照らして私たちの歩みを導いてくれるささやかなともしびのようです。走って通り過ぎれば消えてしまいそうなこの小さな明かりは、しかし私たちの不安をおさめ、どこまでも前に進む勇気をくださる希望の光です。

「あなたの言葉は私の足の灯(ともしび)、私の道の光。」

詩編119章105節

チャブレン 司祭 上平 更

